

行政機構改革検討委員会が提言書を提出



↑ 遠藤町長に提言書を手渡す本多副町長（写真右）

2月1日、広野町行政機構改革検討委員会（委員長：本多明副町長）は、『いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町』の実現に向けた施策を推進するための行政機構改革の具体案を取りまとめ、遠藤町長に提言書を提出しました。

具体案では、平成29年3月末で仮設住宅等の供与期限が終了することに伴い、多くの町民が帰還することが見込まれることから、『いのちを守る』施策に重点を置き、「こども家庭課」を新設することや、現行の「町民保健課」「福祉介護課」「放射線対策課」を統合・再編することなどが盛り込まれています。今後は提言書を踏まえ、遠藤町長が来年度の組織体制について検討していきます。

モンテローザが地域医療支援の寄付



↑（写真左から）馬場浪江町長、大神代表取締役、遠藤町長

2月7日、外食チェーンの1つで、居楽屋「白木屋」のみくい処「魚民」などの居酒屋チェーンを展開している株式会社モンテローザは、広野町の地域医療確保に関する取り組み、ならびに、昨年末に高野院長が不幸の死を遂げ、院長および常勤医が不在という危機的状況にある高野病院の支援に充てるための費用として、広野町に2,000万円を寄付していただきました。

これを受け、遠藤町長は、同じく寄付金を受けた馬場有浪江町長と共に東京三鷹市のモンテローザ本社を訪問し、大神輝博代表取締役に支援に対するお礼を述べるとともに、感謝状を贈呈しました。

女性の起業セミナーを開催



↑女性の起業セミナーの様子

1月20日、女性の起業セミナー「広野ではじめる！動き出す！」を広野町公民館で開催しました。これは、いわき信用組合と町が締結した地域密着総合連携協定を受けた事業の一環として開催したもので、起業を考えている町内の女性に起業について学んでもらうことを目的としています。

当日は10人が参加し、講師を務めた起業支援ネットワークNICE代表理事の増田紀彦さんが、参加者に対し事例を交えながら丁寧な話をしていました。また、セミナー冒頭には、遠藤町長が「新しいまちづくりには女性の活躍が大切であり、実りあるセミナーとしてほしい。」と挨拶しました。

伊東温泉めっちゃくちゃ市に出店



↑広野町のブースを訪れる来場者

1月21日～22日の2日間、静岡県伊東市で開催された「第23回伊東温泉めっちゃくちゃ市」に広野町ブースを出店しました。両日とも広野町認定農業者2人、ニッソ直売所組合組合員4人と町産業振興課職員が、広野産の米や野菜、広野産みかんを使用したストレートみかんジュースを販売しました。

期間中、広野町のブースには、伊東市の佃市長をはじめ、市議会議員の皆さん、ひろの童謡まつりへの出演で交流のある合唱団ジャンテの皆さんが訪れ、来場者に広野町の物産品をPRしてくださいました。21日には遠藤町長がオープニングセレモニーで挨拶し、伊東市民の方々にこれまでの支援に対し感謝の言葉を述べました。また、広野産もち米を使った餅1,000人分を来場者に振る舞いました。

今年初めての交通立哨活動を実施



↑ドライバーに安全運転を呼びかけるネットワーク会議のメンバー

1月30日、今年初めてとなる広野町安心・安全ネットワーク会議による交通立哨活動を実施しました。今回の立哨活動は広野町役場前の国道6号線の交差点付近で行い、交通量が多い夕方時間帯で実施しました。

広野町野球スポーツ少年団の6年生2人が国際大会に出場



↑第4位のトロフィーを受け取る吉田君（写真中央）と園部君（写真右）

昨年12月17日～24日に台湾で開催された「第19回諸羅山盃国際軟式少年野球大会」に、広野町野球スポーツ少年団に所属する広野小学校6年生の園部寛太君と吉田明永君が、「日本福島チーム」のエースピッチャーとキャプテンとして、それぞれ出場しました。

園部君と吉田君は、大会に先立ち、12月12日に同少年団監督の北郷儀勝さんとともに広野町役場を訪れましたが、遠藤町長は、「日ごろの練習の成果を発揮し、ケガのないよう活躍してきてほしい。」と激励し、大会参加に係る費用の一部として、広野町文化スポーツ振興基金からの助成金を手渡しました。

大会結果としては、優勝した「日本京都チーム」に準決勝で敗れたものの、堂々4位の好成績を収めました。

東日本旅客鉄道株式会社水戸支社に対する要望活動を実施



↑（写真左から）奥石水戸支社長、加藤新地町長、遠藤町長

遠藤町長は、2月8日、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）水戸支社で行われた常磐線活性化対策協議会（会長、桜井勝延南相馬市長）の要望活動に参加しました。

要望内容は、鉄道施設の復旧、輸送力の強化、既存運行路線の充実・強化、施設の整備・改善に関する事項について、広野町関係では、①広野駅発着の特急列車の運行を図ること、②県立ふたば未来学園高等学校への通学に配慮したダイヤ編成を行うこと、③広野駅前広場の整備に関して特段の配慮を行うこと、④広野駅の整備（雨よけの設置およびバリアフリー化）を図ることを要望しました。

アサヒビールが復興支援の寄付



↑（写真左から）白井支店長、遠藤町長、田中副本部長

1月25日、アサヒビール株式会社より復興支援として200万円を広野町に寄付していただきました。

広野町役場で行われた贈呈式には、アサヒビールから田中大東北統括本部副本部長、白井源晃福島支店長らが出席し、白井支店長から遠藤町長へ目録が手渡されました。このお金は、東日本大震災および原子力災害から5年が経ち、一刻一刻と変わり続ける広野町の景観やそこで暮らす人々の人間模様を映像化する広野町記録映画作成事業の制作費用に充てられるもので、平成29年度までの2カ年計画となっています。

なお、同社からは、平成26年12月にも学校給食配膳車の購入費用として200万円の寄付金をいただいています。